

## [形成外科]

### [研修の目標]

1～3ヶ月コースでは、形成外科の治療対象となる疾患、創傷治療の概念を理解するとともに、熱傷、体表面の外傷、褥瘡、潰瘍に対する局所治療が行えるようになるための基本的な知識や技術を習得することを目的とする。4～6ヶ月コースでは、研修期間に合わせて上記に加えて日常よく遭遇する表面外科的な治療手技(膿瘍切開、皮膚外科手術など)を自ら診断し、治療が行えるようになることを目標とする。

### [研修指導医]

青山昌平(形成外科部長職務代理)

### [研修コース]

各科ローテートの一環として研修する。

### [研修指導体制]

病棟では、主治医グループの一員として責任ある立場で入院患者の管理と治療に従事する。外来では診察者の補助、患者の記録・外来検査や処置を担当し、併せて診断の基本を習得する。夜間・休日の救急患者の処置と診療に参加し、指導医と共に治療に従事する。手術の際、執刀医を介助し、手術手技、手術器具の種類、使用法などを習得する。論文抄読会・症例検討会で報告を行う。4～6ヶ月コースでは、上記に加えて、学生臨床実習で主治医の一員として、学生教育の補助を行うことが課せられる。

### [研修内容および到達目標]

#### (1)基本到達目標

- ・形成外科で扱うすべての疾患の理解
- ・各種体表面の先天異常に対する診断、治療内容の理解
- ・皮膚・軟部組織再建の基本概念の理解
- ・肥厚性瘢痕とケロイドの発生、経過、予防法、治療の修得
- ・創傷治癒機転の理解と各種創傷、熱傷に対する適切な局所治療の実践
- ・形成外科の基本手術手技の理解と実践
- ・レーザー治療の概念の理解

#### (2)研修内容

- A) 病歴の取り方、診察法、記録法(医用写真など)、診断法(レントゲンなど)
- B) 形成外科的基本手技の習得
  - ・局所麻酔法、伝達麻酔法
  - ・創傷の初期治療

- ・形成外科的手術手技
- ・創傷の管理(各種包帯法と固定法)
- ・炎症性疾患の処置
- ・皮膚潰瘍・褥瘡の処置、創傷治療に用いる薬剤・被覆材の種類と効能の理解
- ・術後の全身管理
- ・術後の創管理と創状態の把握

C) 救急処置の習得

① 処置・手術を前提とした諸検査の実施と評価

② 顔面外傷

- ・検査と診断(単純X線像、CT像の読影)
- ・簡単な軟部組織損傷の処置
- ・簡単な顔面骨骨折の整復

③ 熱傷

- ・熱傷深度の偏低、熱傷面積の算定、重傷度の判定
- ・熱傷の初期治療
- ・軽度熱傷の局所処置
- ・広範囲熱傷の全身管理の理解

④ 手の外傷

- ・検査と診断
- ・応急処置

D) 4～6ヶ月コースでは研修期間に応じて下記の技術を習得する。

- ・形成外科手術における皮膚切開のデザインについての概念の理解
- ・各種移植材料(皮膚・粘膜・骨など)採取
- ・簡単な植皮術の実践
- ・皮膚腫瘍の診断(臨床および病理組織)、外科的治療
- ・治療機器(レーザーなど)の操作法の習得